

浜研通信



第7号

平成25年5月

浜地域研究所の近況をお知らせします

本年度は、津波被害（塩害等）対策や放射性物質吸収抑制技術の開発、農業復興支援に向けた水稲、野菜（ブロッコリー・キャベツ・秋冬ネギ等）、花き（リンドウ・トルコギキョウ等）などの高品質安定栽培技術の確立に向け試験研究を行います。

水稲



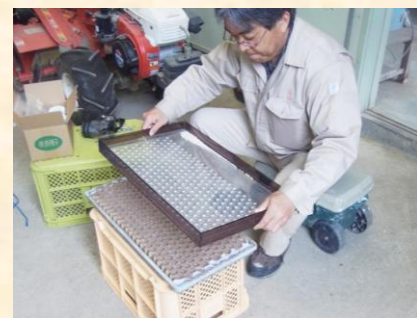
約1300種の品種・系統を播種しました。浜地域研究所には水稲の耐冷性やいもち病抵抗性を調べるための全国有数の施設があります。この施設を使い、新しい品種の開発を行っています。

トルコギキョウ

とても小さな種子をピンセットで慎重に播種しました。本年度は、光質選択性の遮光ネットを用いた品質向上技術の試験を行います。

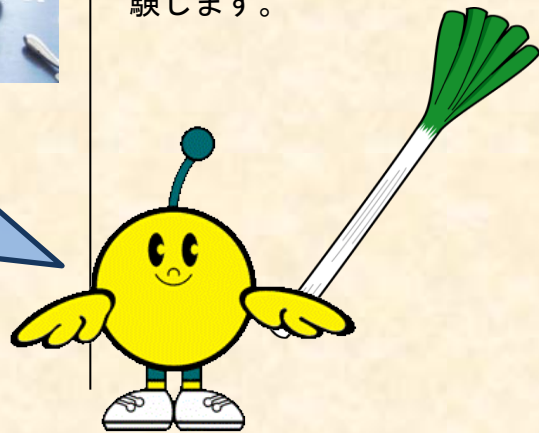


ネギ



台風等の強風による倒伏被害軽減を図るため、剪葉（葉切り）による倒伏軽減効果や生育・品質への影響を試験します。

4月はさまざまな作物の播種を行いました。



研究成果のご紹介

浜通りにおける水稲特別栽培基準の疎植栽培について

浜通り地方の水稲栽培では疎植傾向が進み、特別栽培との組み合わせもみられません。そこで、水稲特別栽培米基準に対応できる疎植栽培について検討しました。

株間を 16cm、23cm、30cm の 3 段階に設定してコシヒカリを移植したところ、株間が広い区ほど m^2 当たり穂数が少なくなり、収量が低下する傾向がみられました。しかし、収支試算では減収による収入減に比べ、苗箱削減による経費削減効果が高くなりました。また、検査等級は全て 1 級と良好でした。

実際に疎植栽培を行うに当たっては、活着後の浅水管理等により茎数（穂数）確保に努めるとともに、従来どおりの病害虫防除を行ってください。



田んぼの生き物たち

農業に関わる生き物の紹介

コオイムシ(カメムシ目コオイムシ科)

田植えが終わると水田には様々な生き物たちがやってきます。畦畔際の水中では白い卵を背負った体長 2 cm ほどの虫を見かけることがあります。これはコオイムシという水生昆虫です。卵を背負っているのはオスで、卵が孵化するまで餌も食わずに守っているのです。コオイムシは他の昆虫やオタマジャクシなどを捕まえて体液を吸います。コオイムシがいるということは、田んぼにたくさんの生き物がいるという証拠でもあるのです。



作物の生育状況

〈麦類の作況試験〉

昨年 10 月 22 日に播種した麦類の出穂期は、大麦「シュンライ」は 4 月 26 日、小麦「ふくあかり」は 4 月 29 日、小麦「きぬあずま」は 5 月 4 日で、「シュンライ」「ふくあかり」は平年値より早く、「きぬあずま」は平年値より 1 日遅れました。

編集・発行 福島県農業総合センター浜地域研究所

浜地域研究所

検索

〒979-2542 相馬市成田字五郎右エ門橋100 TEL (0244)35-2633 FAX (0244)35-0319

ホームページ http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/bu_hama/hama_index.htm